

北小だより

～えのきごころ～

高崎市立北小学校学校通信

2012(H24). 1. 23. 月

No. 98

文責：山崎 貞幸

えのきのように やさしく 強く やりぬく子

第53回高崎市かるた大会： 高学年の部団体見事「優勝」の快挙！！ 個人の部4位入賞！ 低学年の部敢闘賞！受賞おめでとう！

☆1/22(日)浜川体育館にはほぼ満席の児童・生徒・子育て関係者・保護者・該当教職員(校長・先生等)で埋まり、熱気にあふれ、緊張の中でかるた大会が始まりました。そんな中で、本校区の予選を勝ち抜いた精鋭の代表個人・団体の選手全員は、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮いたしました。本選での予選一次リーグを勝ちあがり、本校では1個人、2団体が予選二次リーグへ進み、決勝の1位決定戦と3位決定戦に、高学年の団体と個人が挑みました。そして、見事に、高学年団体の部において、優勝し、個人が4位入賞を果たしました。おめでとうございます！優勝した高学年の部飯塚第2団体は県大会出場です。

☆年末年始には、練習に余念がなく、子どもたちのために子ども会育成会の皆様のご尽力が実を結びました。惜しくも市の大会に出場できなかった2位チーム等の選手も練習相手をしていただき本当に有難うございました。皆さんに心から感謝申し上げます。また、敢闘賞の低学年の部、健闘した低学年の部個人のガンバリ！にも大きな拍手を送ります。



学校教育目標の検証について③

- ☆ 「コミュニティスクールの継承と充実」についての検証は、本校の特色ある学校の成果と課題そのものと考えてよいと思います。文部科学省・群馬県・高崎市教育委員会から指定を受けて実践発表してからも継続して指定校となって6年が経ちました。学校教育目標の具現化にとって、コミュニティスクールの考え方の取組は児童の実態のマイナス面の解消につながったとともに、地域や保護者の主体的な活動のきっかけになっています。例えば、児童の体験的な活動の補助は学校行事では味わえない自然や野外生活など、全児童を対象として実践できたこと。(PTA との連携の七夕キャンプ、豊かな体験部会の七夕山他諸活動)英語活動・家庭科等の学習支援ボランティア活動、「コミュニティ通信」などの情報発信は、年々少しずつ改善・向上・充実してきました。課題としては、スクールボランティアや地域パトロールの充実にと比べるとやや地域人材の登録確保・活用等組織体制の整備が後れています。地域の方々や保護者の積極的な働きかけや活動の充実によって得たものが今後も継続発展することが重要です。校庭の芝生化、グリーンカーテン、タイヤ等校庭施設整備(ペンキ塗り)などの支援の促進が挙げられます。
- ☆ 今年度は、本校の開校 110 周年記念事業関連への取組が重点化されていたので、どこかにひずみが出ていて当然だと思っています。PTA・育成会を始め、地域の各種関係諸団体等との連携を考慮して学校運営をよりよい方向へ進めていきたいと思っています。学校組織に関わらず、一般の会社も同様に、「一致協力」した運営・経営体制(態勢)が必要とされます。一個人が役目を担い、一生懸命に職責を果たすので、組織が盛り上がり、教育的な効果(学力・体力等の向上)にもつながったり、利潤に反映したりしているわけです。先生方は、今、指導している子どもが、学校が楽しいとか、生き生きと勉学や運動に励み、一生懸命にやっている姿を見るにつけ嬉しいものです。やりがいや働きがいがあるのもそこが根底だと思っています。

◇21日(土)は「大寒」でしたが、その前日に大雪の「初雪」が降りました。久々の乾燥注意報が解除されたのに、大雪・着雪注意報が発令されていました。子どもは雪遊びで夢中になって喜ぶのですが、その後が大変です。全身びしょぬれになったり、衣服がドロだらけになったりと……。風邪を引かないように。「雪はよいよい、帰りはこわい。」の心境でした。

初雪・大雪!の日...

◇1/20/金：朝から高崎に、北小校庭に、大雪が降り、早速に子どもたちは雪合戦や雪だるま作りにはしゃいでいました。初雪で県内に大雪注意報も発令中でしたが、4年生は当初の予定の校外学習「群馬探検隊」に朝早くから9グループに分かれて出発して行きました。主な方面としては、草津温泉、月夜野びードロパーク、たくみの里、伊香保温泉、神流町恐竜センター、自然史博物館・富岡製糸場、ロックハート城などです。保護者の支援の下、担任等が引率して行ってきました。おつかれさまでした。



阪神・淡路大震災から17年

- ☆ 平成7年1月17日に「阪神・淡路大震災」(阪神大震災ともいう。)が発生し、多くの犠牲者(6434人)とともに被災された方々も多数出ました。午前5時46分というまだ未明の大惨事は、関西地方を震撼させました。特に地震に伴う火災の発生と高層ビルや建物・高速道路等の倒壊・破壊等でパニック状態に陥ったことが被害を拡大させました。
- ☆ 昨年の「東日本大震災」の記憶はまだまだ鮮明に脳裏に焼きついています。太平洋沖合いの地震と津波の恐ろしさと原発事故による放射能・放射線量汚染の問題は今後の大きな課題の一つです。「阪神・淡路大震災」の復旧・復興の道筋は被害が甚大であった東北3県でも「教訓」を参考にしていることではないでしょうか。自然災害における人間の知恵は起きてから始まります。予知や予防対策が、未然に事態を收拾してくれる日はいつになるのでしょうか。その前に、自然災害から思わぬことで人災にならないよう事前に注意しておきたいものです。学校での防災・避難訓練の重要性が理解できます。日頃からの危機意識と緊急避難の対応を心がけておきましょう。